



## 予防のための応急手当訓練

乳幼児向け 令和元年 11月 24日（日）

救急事故の多くは事前の予防対策によって未然に防ぐことができます。

当センターでは、身近に起こる事故を予防する対策として、「予防のための応急手当訓練」を姶良市消防本部の御協力のもと毎年実施しております。

今年は、11月24日（日）10：00～11：30

大人19名子供1名 合計26名の方に参加していただきました。



姶良市消防本部中央消防署 姶良分遣所

第2消防分隊長 稲留 健悟（講師）

# 事故の事例や予防対応策についての講義



## 吐乳による窒息

### 「赤ちゃんの様子に十分な気配りを」

赤ちゃんは、ミルクと一緒に空気を飲む為、げっぷを十分にしないとミルクをもどした際、喉や気管に詰まり、窒息する恐れがあります。

げっぷがうまく出ない時、10分～15分はミルクを吐かない様子を見て下さい。

予防策：授乳した後は、げっぷをさせた後寝かせる



## ナツツ類による窒息

### 「しっかり見極めて事故防止」

赤ちゃんの喉は、まだ未発達なので、気管に物が入りやすく特に豆類は赤ちゃんの気管を塞いでしまう大きさなので、窒息の危険があります。

更に、肺の炎症を起こす危険があります。

予防策：ナツツ類は3歳位まで与えないように食べ物を多く詰め込まない様気をつけて



## 浴槽への転落

### 「事故が起こる前にしっかり確認」

知らないうちに子供が浴室に入り、浴槽をのぞき込み転落し、溺れる恐れがあります。

浴室には外鍵をつけて、子どもが勝手に入られないようにしましょう。

予防策：風呂の扉は施錠しておく  
入浴後は浴槽の湯を抜いておく



## 赤ちゃん用浮き輪での事故

### 「浮き輪をしていても、細心の注意を」

赤ちゃんが水に慣れる為の首掛け式浮き輪を使う家庭が増えています。

しかし、浮き輪が首から外れ溺れる事故が発生しており、空気の量やベルトが外れていないか、しっかり確認しましょう。



予防策：使用中は絶対に子どもから目を離さない

## 赤ちゃんを落とす事故

“いつもより慎重に”を心がけましょう

赤ちゃんを抱いている時は足元が見えにくいので、階段を踏み外したり、滑ったりして、赤ちゃんを落としてしまう危険があります。高い場所からの転落は、重大な事故になりやすいので、十分に注意が必要です。

予防策：階段の上り下りは慎重に



## ドアによる指はさみ事故

「赤ちゃんの目線で危険を感知」

赤ちゃんの小さな指は、ちょっとしたすき間にも簡単にあってしまいます。



開けっ放しにしていたドアが、風で急に閉まり指を挟む事があるので、要注意です。

予防策：ドアを開閉するとき、赤ちゃんの手の位置に注意ちょうつかい部にカバーをつける等の工夫を

## 電気毛布などによる低温やけど

「こまめに温度をチェック」

電気毛布やあんかなどを、体の同じ場所に長時間接触させて使うと、低温やけどを負う恐れがあります。低温やけどは皮膚の深い部分にまで達するので痛みを感じにくく、赤ちゃんはやけどをした事に気付かず重症となる場合があります。



予防策：寝床が暖まったら電源を切るなど温度設定に注意

## ソファー・ベッドからの転落

「赤ちゃんから目を離さない」

ソファー等に寝かせた場合、寝返りの際赤ちゃんが転落する恐れがあります。おむつ交換台から、保護者が目を離した隙に赤ちゃんが転落する事故も起きてています。

予防策：高い所に寝かせず、ベビーベッドの柵は常に上げておきましょう



## 家具の角などによる切傷・打撲

「ちょっとした工夫で危険を回避」

赤ちゃんは頭が重く、バランスを崩して前のめりになったり、後に倒れたりして、近くの家具や机の角、おもちゃなどにぶつかり怪我をする恐れがあります。



予防策：角や縁の鋭い家具を置かないようにし、クッションテープを張り、積み木などのおもちゃはこまめに片付けを

## テーブルクロスによるやけど

「テーブル上のものにも注意を」

つかまり立ちを覚えた赤ちゃんが、テーブルクロスやランチョンマットを引っ張りテーブル上の熱い飲み物をかぶり怪我や火傷を負う事故が発生しています。



予防策：熱い飲み物等はテーブルクロス中央へ

## 車に関連する事故

### 「目と声でしっかり確認」

車のドア等を閉める時、赤ちゃんの手に気付かず閉め、怪我を負わせる恐れがあります。  
また、シートベルトで遊んでいて誤って首を絞め付け窒息する恐れもあります。



予防策：ドアや窓を閉める際、頭や手が出ていないか確認  
ロック機能を活用、チャイルドシートを使用する

## 熱中症

### 「一人にするのは最も危険」

赤ちゃんを自動車の中に残したままにしていると、暑い季節は熱中症になる事があり、時には死亡事故につながる事があります。



体温調節機能が未熟な赤ちゃんは大人よりも熱中症になりやすく、特に注意が必要です。

予防策：赤ちゃんを決して車の中に1人で残しておかないようにしましょう。

## 鼻や耳などに異物が入り込む事故

### 「赤ちゃんの近くに小さな物を置かない」

鼻や耳に異物が入り込む事故が起きています。  
異物が取り出せない場合は無理に取ろうとせず、医師に相談したり病院を受診しましょう。



予防策：小物類は子供の手の届く所に置かず、子供の周囲を常に気にかけるようにしましょう

## 蜂蜜は1歳を過ぎてから

### 「子どもが大好きな甘いお菓子にも...」

蜂蜜は1歳未満の赤ちゃんにあげてはいけない食品の一つです。未加工の蜂蜜には、ボツリヌス菌が混入している物もあり、乳児が食べると腸内で繁殖し乳児ボツリヌス症を引き起こし、マヒ症状や呼吸困難を起こす事もあります。



予防策：一歳未満の乳児には絶対に与えない

## 小児科はどこ？



子どもは休日や夜中に発熱したり具合が悪くなるものです。  
皆さんはどのような対策をしていますか？

- ・当番医の調べ方はご存じですか？
- ・かかりつけ医はありますか？
- ・早めの病院受診が大切です。

## 小児対応可能な病院

### ・鹿児島市夜間急病センター

099-214-3350

月～土 19時～翌朝7時  
日・祝 18時～翌朝7時

### ・霧島市医師会医療センター

0995-42-1171

月～土 19時30分～22時30分  
日・祝 18時30分～21時30分

# AEDを使って心肺蘇生の説明



参加者の方から「実技をとおして、実際の動きなどが確認できてよかったです」

など感想をいただきました。

子供は大人からみると意外な行動や反応をする事があります。

子どもの特性と行動を知り、家庭内や身の回りのちょっとした事に注意を払い、適切な対策を講じ事故の発生を未然に防止することが重要です。

姶良市消防本部の皆様、ご協力ありがとうございました。

